



TOPICS

カメラマーク

= 写真撮影日



4/10

食農教育に 役立てて



小山さん[㊟]と千田さんに手渡す岩本宰一総務部長[㊟]

小学校高学年向けの補助教材「農業とわたしたちのくらし」をJA管内の小学校へ贈りました。補助教材は主に5年生の社会科の学習内容と関連を図り、食農や環境教育を基本テーマに「食」と「農」、「環境」の密接な関わりや流通について、学校給食と関係付けて学ぶことができます。一関小学校の千田朋佳さん^{ともか}と小川紗英さん^{なほ}は「暑い中で働くイメージがあり大変そう」「学習もしっかりしたい」と笑顔を見せました。

4/16

収入保険加入 促進へ向け協定



協定書に調印する佐藤鉦一組合長[㊟]

農業経営者の経営安定化に向け、農業保険の活用による農業経営の安定化に資する協定書の調印式がJA本店で行われました。近年頻発する異常気象による農産物の価格変動や新型コロナウイルスの感染拡大に伴う影響などに対応するため、組合員に対する制度の理解増進を図っていきます。農業経営の安定および農業の健全な発展に向け、収入保険制度に関する必要な情報の提供と制度説明会や相談会を開催していきます。

金沢小(花泉)

4/17



種まきに集中する児童

お米がたくさんとれますように

地元農家の佐々木弘さん(花泉)の指導で5年生17人は「ひとめぼれ」の種まきを行いました。苗箱の土入れ、種もみの計量、種まきを丁寧に行いました。千葉琉香さん^{るか}は「初めてだけど、うまくできて楽しかった」と話しました。

室根東小

4/16



ピーマン苗を丁寧に植える児童

おいしい大きなピーマンになあれ

ピーマン農家の千葉寿男さん(室根)の指導で2年生14人は、ピーマン苗の定植を体験しました。1人4株ずつ丁寧に植え、水やり作業をしました。西城心香乃さん^{この}は「初めて植えることができて楽しかった。元気に大きく育ってほしい」と話しました。

新規就農希望者を しっかりサポート

新規就農ワンストップ相談窓口がJ A営農振興センター内に開設され、J Aや関係機関が一体となり新規就農希望者の相談を受けています。J Aや関係機関が情報を共有しながら新規就農希望者へさまざまな情報を提供し、就農後5年間継続的に支援を行いながら経営の確立につなげていきます。月1回の開催を基本としますが、新型コロナウイルスの感染防止のため5月13日の相談は中止となります。相談を希望の方は、6月の相談窓口をご予約ください。



関係機関が集まり相談者に情報を提供

りんご部会



4/3

リンゴ防除適正に

園場で説明を聞く生産者



リンゴ定例指導会を管内12会場で開き、防除の準備や人工授粉等の結実確保対策などを確認しました。記録的な暖冬と少雪で例年より9〜13日生育が早まっているため防除を早く開始することや凍霜害に注意することなどを指導しました。



4/3

水稻育苗センター種まき開始

確認しながら作業を進める季節作業員



J A管内の各地域の水稻育苗センターでは、令和2年度産「ひとめぼれ」などの種まきが始まりました。育苗センターの稼動に伴い神事を行い安全を祈願しました。5月中旬から本格的に始まる田植えに合わせて健全な苗を農家に供給できるように育苗管理を行っています。

いちご生産部会

4/10

良品出荷を目指して

令和2年度の中間実績検討会と目揃え会をJ Aの花泉集荷場で開きました。1月、2月の出荷が好調だったため3月末時点で出荷数量、販売金額ともに前年の105%になったことを報告しました。目揃え会では1日でも長く出荷ができるよう今後の栽培管理と出荷時の注意点を確認しました。J Aいちご生産部会の滝澤幸夫部会長は「良品質なイチゴを継続的に出荷していきたい」と話しました。



目揃え会で出荷時の確認をする生産者

りんご部会



4/16

高品質化に向けた
着果制限を

りんご定例指導会を管内11会場で開催、開花前の凍霜害対策や摘花などについて確認しました。開花期に近づくほど凍霜害を受けやすくなるため、事前と事後対策の他、果実肥大につなげるため摘花を行い、早期に着果量を制限することや摘花剤の利用で摘果作業の省力化が図られることを確認しました。生産者の千葉たつ子さんは「摘花と摘果で着果調整をしながら良質なりんごを生産したい」と意欲を見せました。



凍霜害被害を確認する生産者

ピーマン部会

4/10

自家育苗管理を学ぶ

育苗管理を確認する若手生産者



担い手生産者育苗研修を及川華代さん（藤沢）の圃場で開き、若手生産者8人はピーマンの自家育苗管理の方法を学びました。今年初めて自家育苗に取り組んだ及川さんは「苗の生育状態を常に見ることができ、定植時期を決めることもできる」と説明しました。

ピーマン部会

4/8

栽培技術の早期習得を支援

指導するJA園芸課の菅原真一職員



新規生産者を対象とした定植実演会を菅原清信部会長の圃場で開きました。新規生産者の（同）ガーディアン・アローズの三浦一道さんは「全てが初めて。定植の良し悪しが最後まで影響するとのことなので一つ一つ確認しながら作業を進めたい」と話しました。

4/21

JA生活シーダーに
委嘱状を交付

JA生活シーダー委嘱状交付式を行い、各営農経済センターから推薦された31人に委嘱しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のためJA女性部本部役員を兼ねる3人が代表で委嘱状を受け取り、佐藤セイ子さん（花泉）は「趣味や資格を生かし地域のみんなが楽しく活動しながら話せる場をつくっていきたい」と話しました。任期は2年間で手芸教室や料理講習など地域活動のアドバイザーとして活動します。



委嘱状を受け取る佐藤さん

4/22

食べて応援！ 牛肉消費拡大へ

J Aは新型コロナウイルスの感染拡大により牛肉消費が低迷し、枝肉価格が下落していることを受けて「食べて応援牛肉セーブル」を行いました。新型コロナウイルス災害対策本部会議で「いわて牛」の消費拡大に取り組みを決め、(株) いわちくの協力を得てJ A役員や一関市、平泉町が一体となり取り組みました。J Aの佐藤鋳一組合長は「今後も消費拡大運動の取り組みを検討しながら農業者の生産意欲の向上につなげていきたい」と話しました。



納品された商品を確認する常勤役員

ピーマン部会

3/25

定植後の防除と管理を しっかり



畝立て方法を確認する参加者

ピーマン定植指導会を管内5会場で開催、圃場準備や苗の供給時期、定植後の管理方法を確認しました。一関農業改良普及センターの岩渕久代主査農業普及員は「しっかり根張りするように浅植えを行い、ぬるま湯で手灌水を行うこと」などを説明しました。

きゅうり部会



4/15

キュウリの出荷が始まる

J A管内の促成栽培キュウリの出荷が4月12日、始まりました。管内では促成、夏秋ハウス、夏秋露地、抑制の作型で栽培しているため、11月まで長期出荷が可能。令和2年度は販売額2億8600万円、出荷量1100トを目指します。

キュウリを搬入する生産者の本田洋一さん



4/20

交代勤務で感染予防



出勤人数を調整し業務を行う職員

新型コロナウイルス感染防止に伴い職員の健康管理と事業継続を図るため5月22日まで交代勤務で対応しています。各営農経済センターの農繁期営業時間延長と各支店・各出張所の水曜日時間延長などを一時休止し一日も早い収束に向け感染防止に努めています。

農事組合法人門崎ファーム(川崎)



4/6

ひまわり油好評

ひまわり油と成分を紹介する藤江修組合長(左)と鈴木勝司副組合長



ヒマワリの栽培を平成30年から始め、今年初めて「ひまわり油」を限定販売しました。無味無臭で使いやすく好評で、令和2年度は畑を借り5㏎で栽培する予定。「ひまわり油」は道の駅かわさきで1瓶(180㏎入り)1000円で販売。好評につき完売しました。